令和五年度　全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

知事賞　優秀賞　中央審査　佳作

「守り続けたい、限りある資源」

松山市立興居島中学校　二年　三輪（みわ）　優佑（ゆうすけ）

『水』それは私たちにとって、蛇口をひねれば、当たり前に出てくるもの。今まで僕はそう思っていた。

先日、私の通っている中学校で、水の大切さを教える、特別授業があった。テーマは『水循環を考える』だ。そこで私は今一度水の大切さについて考え直してみた。もし水がなくなってしまったら？もし安全な水が手に入らなかったら？今まで以上に水のことに関心を持って、深く考えることができた。すると、様々な気づきがあった。

水は長い時間をかけて、地球を循環していく。雨が降り、地下水となって、川を流れ、海にたどりつく。やがて水蒸気になり、それが集まって、雲を形成する。その中で、何百万という雲の粒が集まり、また雨が降っていく。水はずっと循環しているのだ。何百年も何千年も。その限られた水を借りて、私たちは生きている。水がなくては、できないこともたくさんあるだろう。改めて私は水のありがたみが、身にしみて感じられた。

そんな大切な水を私たち人類は古くから利用してきた。今、私たちの住んでいる愛媛県でも、水がなくては発展しない産業がいくつもあっただろう。もちろんこれは、愛媛県に限ったことではない。日本中、世界中で水は必要とされてきたのだ。紀元前三千年におこったエジプト文明では、『エジプトはナイルのたまもの』と言われ、豊かな水によってエジプト文明は発達した。

私たちが生きていくためにも、発展していくためにも、水は必要不可欠なのである。水があるからこそ、私たちは便利に生活していられるのだ。そんな中でも、私が特に驚いたことは、衛生的な水を安定し

て得られる国の少なさである。世界には、およそ百九十余りもの国があるというのに、水道水をそのまま飲める国はたったの十一か国しかないという。それどころか、アフリカなどの国々では、不衛生な水しか飲むことができず、病気などで亡くなる人も少なくない。最近はそれに対する取り組みが増えて、問題も解消されつつあるが、まだまだ十分だとは言えないだろう。私たちはこの現実に気づき、行動に移していく必要がある。節水や日ごろからの意識だけでなく、さらに世界を広げて見ることも大切だと思う。

そんな私が住んでいる興居島も、松山本土から離れた離島のため、昔は簡易的な水道からしか、水を得られなかったそうだ。そのために水道の供給が不安定で、生活にも支障をきたしていた。島の主な産業は柑橘類の栽培のため、農業用水を大量に用意する必要があった。そこで、平成元年に、松山本土からの、海底ケーブルを使った、上水道の給水が開始された。そのかいあって、今では興居島のみかんが、愛媛で知らない人はいないほど有名になっている。

私たちはこの大切な『命の水』を守っていかなければならない。一人の力は小さくてもみんなが意識して、節水活動や、日ごろからの行動をすれば、小さな力が集まり、やがて、地球全体の大きな行動につながっていくと思う。百年後も、千年後も、この限りある、大切な資源を、世代を超えて、守っていくのが、今の私たちの使命なのだと、実感した。

今まで私は、やらなくてはいけないとわかってはいながらも、なかなか行動に移すことができなかった。行動に移そうとするのは、簡単に見えて、案外難しいものである。しかし、このままでいるわけにもいかない。これからは資源のことをあやふやに考えるのではなく、いま世界で起きていることを、冷静に受けとめ、真剣に考えていこう。今、私ができること、それは、水を流しすぎないことや、無駄な水を使う時間をなくすこと。いま目の前にあることに取り組んでいこう。これからも水と共生する明るい未来のために。